

携帯電話－固定電話アダプタ (FOMA ケーブル接続)

# 取 扱 説 明 書

## 目次

<b>1 使用上の注意</b> .....	<b>1</b>
<b>2 セットアップ</b> .....	<b>2</b>
2.1 接続 .....	2
2.2 FOMA 携帯電話の取り付けと取り外しについて .....	2
2.3 前面パネルのインジケータについて .....	2
2.4 接続の確認 .....	3
2.5 ナンバーディスプレイの設定 .....	3
2.6 携帯電話の設置場所について .....	3
2.7 市外局番の設定 .....	3
2.8 特定の番号への発信の許可・禁止の設定 .....	3
2.9 プレフィックス番号の設定 .....	4
2.10 通話時間制限の設定 .....	4
<b>3 通常の使用方法</b> .....	<b>5</b>
3.1 着信 .....	5
3.2 発信 .....	5
3.3 FOMA 携帯電話の充電モードについて .....	5
3.4 FOMA 携帯電話の再発信規制と自動再起動について .....	6
3.5 電源断 (停電など) からの復帰について (FOMA 携帯電話の場合) .....	6
3.6 パスワード機能 .....	6
<b>4 モード設定</b> .....	<b>7</b>
4.1 受話・送話音量の設定 .....	7
4.2 ノイズ低減 .....	7
4.3 極性設定 .....	8
4.4 ナンバーディスプレイ .....	8
4.5 固定電話の回線種別 .....	8
4.6 ダイヤル終了から発信までの待ち時間 .....	8
4.7 発着信許可 .....	8
4.8 再発信規制時 携帯電話自動再起動 .....	9
4.9 充電モード .....	9
4.10 市外局番自動付加 .....	9
4.11 発信制限 (既定番号・無料通話) .....	9
4.12 発信制限 (既定番号・有料通話) .....	10
4.13 発信制限 (個別番号) .....	10
4.14 発信番号プレフィックス .....	11
4.15 通話時間制限 (通知音) .....	11
4.16 通話時間制限 (強制切断) .....	11
4.17 再起動 .....	11
4.18 設定初期化 .....	11
4.19 パスワード .....	12

4.20 バージョン番号確認.....	12
<b>5 付録.....</b>	<b>13</b>
5.1 仕様.....	13
5.2 保証について.....	13

## 1 使用上の注意

携帯電話—固定電話アダプタ (FOMA ケーブル接続) (以下「本製品」) は、携帯電話を 1 回線収容し、内線電話機を使用して携帯電話での発着信および音声通話を実現するものです。本来の用途以外のご使用はしないでください。

本製品は空調管理された室内での設置・使用・保管を想定しています。

下記のような場所には設置・使用・保管をしないでください。

- ・ 極端に高温になる場所 (直射日光の当たる場所や熱源の近くなど)
- ・ 極端に低温になる場所
- ・ 湿度の高い場所 (風呂場や加湿器のそば・風雨の当たる場所など)
- ・ 不安定な場所
- ・ 極端に振動が激しい場所
- ・ 強い磁界・電界が存在する場所 (家庭用コードレスホンや無線機器・電子レンジ・IH 調理機器等の近くなど)
- ・ 空気の汚れが多い場所 (ほこりや油飛びなど)
- ・ 酸化した薬品や可燃性ガスなどが充満した場所

また、下記のような使用方法に従ってください。

- ・ 付属の AC アダプタ・付属の携帯電話接続ケーブル以外は使用しないで下さい。
- ・ 家庭用 AC100V 電源以外では使用しないで下さい。
- ・ 発煙や異臭がする際にはすぐに AC アダプタ・全てのコネクタを抜き、使用を中止して下さい。
- ・ 水が装置内部に入った場合、すぐに AC アダプタ・全てのコネクタを抜き、使用を中止して下さい。
- ・ 濡れた手で本体やコネクタに触らないで下さい。
- ・ コネクタの端子に触ったり、導電性異物や薬品を付着させないで下さい。
- ・ 雷の激しい時は、AC アダプタをコンセントから抜いて下さい。
- ・ 高い場所から落下させないで下さい。
- ・ 分解・改造・ハンダ付けなどをしないでください。

### 免責事項：

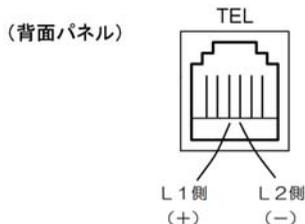
- ・ 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは災害・事故などの外部要因によって、通話の機会を逸したため生じた損害などについて、当社は一切の責任を負いかねます。
- ・ 本製品の不具合・その他過失などによって生じた通話時間超過などによる金銭的・その他の損害などについては、当方は一切の責任を負いかねます。
- ・ 本製品の故障等による物損事故 (接続した携帯電話・固定電話等や周辺の品物が連鎖的に故障した場合など) には、本製品の保証期間であっても、本製品およびその付属品以外については、当社は一切その責任を負いかねます。
- ・ 本製品の故障等による人身事故につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。

## 2 セットアップ

### 2.1 接続

以下の順序で本アダプタ背面の各端子にケーブルを接続して下さい。

- 1) FOMA コネクタ (FOMA) に付属の FOMA ケーブルを差し込んでください。  
また、固定ネジ (2カ所) を締めて下さい。
- 2) モジュラージャック (TEL) とビジネスホンのアナログポートや固定電話を接続してください。  
ビジネスホン主装置のアナログ回線ユニット等、極性がある場合は下図の通り接続してください。  
配線の都合で逆の接続になる場合には、本アダプタの極性設定 (4.3 節) を使用して下さい。



- 3) AC アダプタをコンセントに差し込んで下さい。  
そして、アダプタ背面の DC ジャック (DC12V) に DC プラグを差し込んで下さい。
- 4) FOMA 携帯電話の電源をオンにした状態で FOMA ケーブルを FOMA 携帯電話に差し込んで下さい。

### 2.2 FOMA 携帯電話の取り付けと取り外しについて

FOMA 携帯電話は電源を入れたまま、取り付け・取り外しが可能です。

取り付けるには、2カ所のロックが「カチッ」と音がするまで、FOMA コネクタをしっかりと奥まで差し込んで下さい。

取り外すには、FOMA コネクタの左右にあるロックボタンを押したまま、抜いて下さい。

### 2.3 前面パネルのインジケータについて

前面パネルのインジケータの意味は以下の通りです。

POWER (赤色) : 電源ランプです。本アダプタに電源が供給されている間、点灯します。

CONNECT (緑色) : 携帯電話の接続状態を示します。

消灯 : 携帯電話との接続が切れており、通話不可能な状態。

点灯 : 携帯電話が接続されており、通話可能な状態。

点滅 : FOMA 携帯電話を再起動中。(再発信規制時自動再起動の場合。0 参照)

## 2.4 接続の確認

コネクタの接続が完了したら、固定電話の受話器を上げてください。

コネクタ接続後、アダプタと FOMA 携帯電話の間で通信が行われ、ハンズフリー接続（本アダプタから発信・音声通話を操作するための機能）が確立します。

- 1) FOMA 携帯電話のハンズフリー接続が完了していると、「ツ」と連続音が鳴ります。
- 2) FOMA 携帯電話のハンズフリー接続が完了していない場合には「ブー・ブー…」という断続音が鳴ります。
  - ・前面パネルの「CONNECT」の LED 点灯・消灯でも、接続を確認できます。
  - ・接続時には FOMA 携帯電話の画面にハンズフリー接続のアイコンが表示されます。（アイコンについては携帯電話の取扱説明書を参照下さい）。

## 2.5 ナンバーディスプレイの設定

接続する電話機のナンバーディスプレイ機能の有無に合わせて、本アダプタのナンバーディスプレイ機能の有効・無効を適切に設定して下さい。設定方法は 4.4 節を参照して下さい。

## 2.6 携帯電話の設置場所について

携帯電話は手に持って通話するように設計されています。金属製の机の上に直に置いた場合等には電波感度が低下し、通話が安定しない場合がありますので、金属と接して設置しないようにしてください。

## 2.7 市外局番の設定

市外局番の無い電話番号をダイヤルした際、自動的に市外局番を付けて発信することができます。

4.10 節に従い設定して下さい。一般的には、電話機を設置する地域の市外局番を設定します。

市外局番を付加するのは 1～9 で始まる 5 桁以上の電話番号へ発信する場合です。

## 2.8 特定の番号への発信の許可・禁止の設定

特定の番号で始まる電話番号へ発信の許可／禁止を設定できます。

- ・あらかじめ設定してある電話番号に対する通話を許可するには 4.11 節を参照してください。ここに列挙してある電話番号以外にも通話許可したい場合は 4.13 節に従い設定して下さい。
- ・あらかじめ設定してある電話番号に対する発信を禁止するには 4.12 節を参照してください。

ここに設定されている番号は、各携帯電話会社の音声通話定額プランの対象外となる可能性のある電話番号です。ここに列挙してある電話番号以外にも通話禁止にしたい場合は 4.13 節に従い設定して下さい。

## 2.9 プレフィックス番号の設定

MVNO の通話定額プランなどを本アダプタからの発信に適用するためには、電話番号の前にプレフィックス番号を付けて発信する必要があります。(プレフィックス番号はサービス毎に異なります。各サービス会社のホームページなどで調べてください。

プレフィックス番号を設定すると、この番号をダイヤルした番号の先頭に付けて発信します。(4.14 節を参照のこと)。

## 2.10 通話時間制限の設定

通話定額プランに時間制限がある場合など、通話時間を制限したい場合に下記の動作を設定することができます(発信通話に対して動作します。着信通話には適用されません)。

- ・通話開始後、設定した時間に達すると受話器から「ブブブ... ブブブ...」という音で通知するように設定できます。(4.15 節)
- ・通話開始後、設定した時間に達すると強制的に通話を切断するように設定できます。(4.16 節)

注意：設定を誤ると定額料金を超えて通話する可能性があります。また、通話回数の制限には対応していません。ご自身の通話定額プランの内容や本機能についてよく理解・確認してから使用して下さい。

## 3 通常の使用方法

### 3.1 着信

携帯電話に着信があると接続した固定電話の呼び出し音が鳴ります。

ナンバーディスプレイ対応の電話機を接続し、本アダプタのナンバーディスプレイ機能がオンに設定してあり (4.4 節参照)、発信元が番号通知を有効にしている場合、発信元の電話番号が表示されます。

受話器を上げると通話を開始します。受話器を置くと通話が終了します。

受話器を上げた状態で着信があった場合、受話器から「ブブブ」という音が鳴ります。この場合、一端受話器を置いて下さい。そして、固定電話の呼び出し音が鳴ってから、受話器を上げて通話を開始して下さい。

### 3.2 発信

固定電話の受話器を上げて、受話器から「ツー」という音がするのを確認します。

(この際、「プー・プー…」という断続音が聞こえたら、FOMA 携帯電話と接続できていません。)

次に、固定電話で電話番号を入力します。しばらく経つと自動的に発信します。(発信するまでの時間は設定できます。詳細は 4.6 節を参照してください。)

プッシュホンの場合、電話番号の最後に「#」を入力するとすぐに発信します。

同じ番号に連続して発信できない場合があります (携帯電話会社による再発信規制)。0 節を参考にしてください。

また、携帯電話の操作により発信後、固定電話で通話することもできます (携帯機器の種類により出来ない場合やがあります)。

固定電話の受話器を置いたまま、携帯電話で発信操作をしてください。少し (1, 2 秒) 経ってから受話器を上げてください。受話器から発信中の音が聞こえ、以後は通常の発信と同じです。

### 3.3 FOMA 携帯電話の充電モードについて

本アダプタに接続されている FOMA 携帯電話は充電されます。

携帯電話の種類によっては充電中に通話音声にノイズが入る場合があるため、通話中には充電を停止することができます。設定方法は 4.9 節を参照してください。

初期設定では「通話中には充電しない。ただしバッテリーレベルが低下した時には充電する。」になっています。

### 3.4 FOMA 携帯電話の再発信規制と自動再起動について

同じ番号に続けて発信し、何らかの理由で相手が電話に出ないことが何度か続いた場合、一時的に FOMA 携帯電話からその電話番号に発信できなくなる場合があります。これは、自動装置から頻繁な再発信を規制する携帯電話会社側の仕組みです。この場合は、受話器から「ブー・ブー…」という音が鳴ります。

この場合、しばらく（数分かかる場合もあります）間をおいて再度かけ直すか、FOMA 携帯電話の電源を一旦切ることが必要になります。

本アダプタでは、再発信規制時に自動的に FOMA 携帯電話の再起動をします。（電源をオフにした後にオンにします）。設定方法は 4.8 節を参照して下さい。

自動再起動が働いた場合には以下のように反応します。

電話を発信した際に再発信規制がかかった場合には、通常の「トゥルルル… トゥルルル…」という発信中音が鳴らず「ブー・ブー…」という音が鳴ります。

そして、自動的に FOMA 携帯電話の電源が切れ、しばらく経過すると自動的に電源が入ります。

その後、自動的に FOMA 携帯電話とハンズフリー接続され、受話器の音が「ツー」音に変わります。

この状態になってから、再度電話をかけてください。

### 3.5 電源断（停電など）からの復帰についてき(FOMA 携帯電話の場合)

停電などで AC 電源が切れた後、電源が復帰すると FOMA 携帯電話の充電が開始され、携帯電話の電源が自動的にオンになります。

ただし、携帯電話のバッテリーが完全に無くなっている場合、使用可能になるまでに数分かかる場合や、手動で携帯電話の電源ボタンを押す必要が生じる場合があります。

### 3.6 パスワード機能

パスワード機能を使用すると以下の動作に制限をかけることができます。

不特定多数の人が使用する用途の場合などにご利用下さい。

- ・モード設定（4 章）を行うためにはパスワードの入力が必要になります。

パスワードの設定・解除については 4.19 節を参照して下さい。

## 4 モード設定

本アダプタには各種設定項目があり、以下の手順で設定を行って下さい。  
各設定項目は、電源が切れても保存されます。

- 1) 設定を開始するには、受話器を上げて「0000」を入力します。(受話器を上げた時の発音音は「ツー」または「プー・プー…」のどちらでも構いません。
- \* ) パスワードが設定されている場合、「設定モードです。4桁の番号を入力してください」とアナウンスが流れるので、4桁のパスワードを入力してください。
- 2) 「設定モードです。3桁の機能番号を入力して下さい」とアナウンスが流れるので、以下の通り、アナウンスに従って操作して下さい。アナウンスの途中でも入力可能です。
- 3) 現在の設定値が読み上げられます。
- 4) アナウンスに従い3桁の機能番号を入力します。
- 5) アナウンスに従い、以下の表を参考に、指定の桁数の設定値を入力します。
- 6) 設定に成功すると「設定しました」とアナウンスが流れます。
- 7) アナウンスに従い、再び2) から繰り返すか、設定が完了したら受話器を置いて下さい。
- \* ) 途中で設定を中断するには受話器を置いて下さい。

### 4.1 受話・送話音量の設定

機能番号	設定値	初期値	
111	0~9	5	受話音量を設定します。(0:最小, 9:最大)
112	0~9	5	送話音量を設定します。(0:最小, 9:最大)

### 4.2 ノイズ低減

機能番号	設定値	初期値	
221	0~9	4	受話音声が無音のときの雑音を減らします。
222	001~999	100	221 の設定レベルより受話音声小さい期間が 222 の設定値の期間 (単位: 5 ミリ秒) 続くと、無音とみなしミュートします。 221 の設定値を大きくすると雑音が減りますが、自然な通話感が損なわれやすくなります。 222 の設定値が短いと通話中にミュートが切り替わり、雑音が入る場合があります。
223	0~9	0	送話音声が無音のときの雑音を減らします。
224	001~999	100	223 の設定レベルより送話音声小さい期間が 224 の設定値の期間 (単位: 5 ミリ秒) 続くと、無音とみなしミュートします。 223 の設定値を大きくすると雑音が減りますが、自然な通話感が損なわれやすくなります。 224 の設定値が短いと通話中にミュートが切り替わり、雑音が入る場合があります。

### 4.3 極性設定

機能番号	設定値	初期値	
871	0, 1	0	モジュラープラグの配線に極性がある電話機(一部のビジネスホンなど)において、配線の都合で極性が逆になる場合には、本設定にて極性を反転させることができます。 0: 極性反転しない, 1: 極性反転する

### 4.4 ナンバーディスプレイ

機能番号	設定値	初期値	
121	0, 1	1	ナンバーディスプレイ機能の有効・無効を設定します。 接続する電話機のナンバーディスプレイ機能の有無に合わせて設定して下さい。 0: 無効 1: 有効

### 4.5 固定電話の回線種別

機能番号	設定値	初期値	
122	1~3	1	プッシュ式・ダイヤル式電話機のどちらでも、初期設定でほとんどの場合動作しますが、万が一動作しない場合に設定して下さい。 1: プッシュ回線 2: ダイヤル回線 (20pps) 3: ダイヤル回線 (10pps)

### 4.6 ダイヤル終了から発信までの待ち時間

機能番号	設定値	初期値	
123	05~99	25	ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定します。 ダイヤルの途中で発信してしまう場合、大きめ値を設定して下さい。単位は 0.1 (秒) です。0.5 秒~9.9 秒の値を設定できます。

### 4.7 発着信許可

機能番号	設定値	初期値	
211	0~3	3	FOMA 携帯電話での発信・着信の許可・禁止を設定します。 0 発信禁止, 着信禁止 1: 発信許可, 着信禁止 2: 発信禁止, 着信許可 3: 発信許可, 着信許可

#### 4.8 再発信規制時 携帯電話自動再起動

機能番号	設定値	初期値	
212	0, 1	1	携帯電話会社による再発信規制がかかった場合にこの機能が有効になっていると、FOMA 携帯電話が自動的に再起動し、発信できる状態になります。 0:無効, 1:有効

#### 4.9 充電モード

機能番号	設定値	初期値	
213	0~3	2	FOMA 携帯電話を充電する条件を設定します。 0:常に充電しない 1:通話中には充電しない。(非通話中は常に充電します)。 2:通話中には充電しない。ただしバッテリーレベルが低下した時には充電する。(非通話中は常に充電します)。 3:常に充電する

#### 4.10 市外局番自動付加

機能番号	設定値	初期値	
131	7桁 まで	オフ	市外局番の無い電話番号をダイヤルした際、自動的に市外局番を付けて発信します。電話機を設置する地域の市外局番を設定して下さい。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。

#### 4.11 発信制限 (既定番号・無料通話)

機能番号	設定値	初期値	
711	0~9	9	発信時の電話番号の先頭部分を指定して、発信を許可・禁止する機能です。 下表において、番号 N と本機能の設定値を比較して、 $N \leq$ 設定値で始まる番号には発信することができ、そうでない番号には発信できません。例えば設定値が 2 のときは、110, 119, 118 番には発信できますが、113, 0120, 0800 番には発信できません。 本機能で対応できない番号は 4.13 節の個別番号の設定にて許可・禁止を行ってください。  番号 N 発信番号 1 110 (警察) 1 119 (消防) 2 118 (海上保安庁) 3 113 (故障受付) 4 0120 (フリーダイヤル) 5 0800 (フリーダイヤル)

#### 4.12 発信制限 (既定番号・有料通話)

機能番号	設定値	初期値	
712	0~9	2	<p>発信時の電話番号の先頭部分を指定して、発信を許可・禁止する機能です。</p> <p>下表において、番号 N と本機能の設定値を比較して、<math>N \leq</math> 設定値の発信番号で始まる電話番号には発信することができ、そうでない番号には発信しません。</p> <p>例えば設定値が 1 のときは、171 番には発信できますが、それ以降の#で始まる番号、0180 番、0570 番などには発信できません。</p> <p>本機能では補いきれない場合は 4.13 節の個別番号の設定にて許可・禁止を行ってください。</p> <p>番号 N 発信番号 (x は任意の番号を表します)。</p> <p>1 171 (災害用伝言ダイヤル)</p> <p>2 #7119 (各地救急相談センター・救急安心センター)</p> <p>2 #9110 (各地警察総合相談センター)</p> <p>3 #xxxx</p> <p>4 1xx</p> <p>5 0180 (呼数集計、テレドーム)</p> <p>6 0570 (全国统一番号、ナビダイヤル)</p> <p>7 104 (番号案内)</p> <p>8 00xx</p>

#### 4.13 発信制限 (個別番号)

機能番号	設定値	初期値	
721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 720	<p>電話番号 11 桁まで</p> <p>に続き</p> <p>発信禁止 000</p> <p>発信許可 001</p>	0000	<p>発信時の電話番号の先頭部分を指定して、発信許可・発信禁止を指定できます。</p> <p>4.11 節・4.12 節の発信制限 (既定番号) で設定しきれない番号に対して発信の許可・禁止の設定ができます。本機能の設定は発信制限 (規定番号 無料通話・有料通話) の設定より優先されます。</p> <p>1) 設定モードで 721~720 の機能番号を入力してください。</p> <p>2) 現在の設定値の確認と「番号を入力してください」とアナウンスが流れるので、指定したい電話番号を入力してください。1~9 桁の範囲で入力できます。</p> <p>3) 「3 桁の番号を入力してください」とアナウンスが流れるので数字を入力してください。それぞれの意味は以下の通りです。</p> <p>000: 発信禁止 001: 発信許可</p> <p>一度設定した番号を消去するには該当機能番号の設定値「0000」を「000: 禁止」に設定して下さい。</p>

#### 4.14 発信番号プレフィックス

機能番号	設定値	初期値	
751	11 桁 まで	0000	発信する際に電話番号の先頭にこの番号を付けて発信します。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。

#### 4.15 通話時間制限 (通知音)

機能番号	設定値	初期値	
752	0000 ～ 9959	0000	通話時間制限に近づいたことを通知する時間を設定します。 通話開始後、設定した時間に達すると受話器から「プププ...」という通知音が鳴ります。 分(2桁)+秒(2桁)を設定して下さい(例: 4分30秒の場合、0430)。1秒刻みで最大99分59秒まで設定できます。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。

#### 4.16 通話時間制限 (強制切断)

機能番号	設定値	初期値	
753	0000 ～ 9959	0000	通話時間制限を設定します。 通話開始後、設定した時間に達すると通話が切断されます。 分(2桁)+秒(2桁)を設定して下さい(例: 4分58秒の場合、0458)。1秒刻みで最大99分59秒まで設定できます。 「0000」を設定すると本機能はオフになります。 多少の誤差が生じる場合がありますので、制限したい時間よりも1,2秒短めに設定することをお勧めします。

#### 4.17 再起動

機能番号	設定値	初期値	
000	無し	無し	内部制御回路が再起動します。 携帯電話アダプタの動作に何らかの異常が生じた場合に使用して下さい。 各種設定値は消去されません。

#### 4.18 設定初期化

機能番号	設定値	初期値	
999	無し	無し	携帯電話アダプタの各種設定値が工場出荷時の状態(各表の「初期値」)に初期化され、内部制御回路が再起動します。 携帯電話アダプタの動作に何らかの異常が生じた場合に使用して下さい。

#### 4.19 パスワード

機能番号	設定値	初期値	
199	0000～ 9999	0000	パスワードを4桁の数字で設定します。 パスワードを忘れると再設定は出来ませんのでご注意ください。 設定値が0000のときにはパスワード非設定となります。

#### 4.20 バージョン番号確認

機能番号	設定値	初期値	
001	無し	無し	内部ソフトウェアのバージョン番号をアナウンスします。 3桁の番号(x.xx)が、取扱説明書の最後に書いてある番号 (ver. FOMA-x.xx)に対応しています。 任意の数字を一桁入力するとアナウンスを終了します。

## 5 付録

### 5.1 仕様

電源	DC12V (AC アダプタより供給)
消費電力	待機時 2.1W 最大 6.6W (FOMA 充電時を含む)
本体寸法	120mm (W) × 100mm (D) × 39mm (H) 突起部含まず FOMA ケーブル接続時 160mm (D)
本体重量	約 150g
動作環境	温度 0°C ~ 70°C 湿度 30% ~ 90%RH (結露なきこと)
接続可能内線電話数	1 回線 プッシュホン電話機・ダイヤル電話機に対応 無電源タイプの電話機 (黒電話や家庭用電話機) も使用可能
適合する内線電話機の仕様	日本国内向け仕様の通話用装置 (平衡 600Ω 端末)
ナンバーディスプレイ	対応
接続可能な携帯電話の数	NTT ドコモ FOMA 携帯電話 1 台
付属品	取扱説明書 AC アダプタ (DC12V) FOMA 接続ケーブル

### 5.2 保証について

保証期間	購入後 1 年間 ただし、使用上の注意 (第 1 章) に従い使用された場合に限りです。
------	---

本製品についてのお問合せは、販売会社もしくは当方までお願い致します。

浜谷製作所

〒744-0019

山口県下松市桜町 1 丁目 1 3 - 1 0

電子メール : [info1@ttrmkr.sakura.ne.jp](mailto:info1@ttrmkr.sakura.ne.jp)

インターネットウェブサイト : <http://ttrmkr.sakura.ne.jp/>